

# 迎春



## かけはし



MACB  
QRコード

編集・発行

中部方面混成団  
本部広報室

Tel 077-523-0034

### 新年のご挨拶

中部方面混成団長

一等陸佐 深田 尚則



中部方面混成団の隊員諸官、そしてお家族の皆様、関係協力団体の会員の皆様、「かけはし」愛読の皆様、明けましておめでとうございます。関係協力団体の皆様には、平素から中部方面混成団に対し、ご支援ご協力を賜り心からお礼申し上げます。また隊員のご家族の皆様には、日頃より隊員の心の支えとなり、激励をいただき、まことにありがとうございます。

昨年の四月に第五代中部方面混成団長として着任し、初めての新年を迎えました。その間、基本教育では、新隊員、陸曹候補生、中級陸曹、上級陸曹、最先任上級曹長、予備自衛官補等の課程教育や招集教育訓練等を通じて、多くの隊員と接することができ、彼らの真摯に学ぼうとする姿勢に感動しつつ、勤務してまいりました。

練成訓練では、日米共同指揮所演習により、指揮幕僚活動を練成するとともに、普通科連隊による招集訓練を通じて、常備自衛官と即応予備自衛官が一体となり、迫撃砲を含む実弾射撃訓練や中隊検閲等に、真摯に取り組み、逐次練度を積上げていくと実感しております。

本年は、基本教育では、臨時新隊員教育隊を含む基幹要員の集合訓練を予定しており、更なる充実を図り、教育に先立ち実施して新隊員教育に臨みます。

また練成訓練では、混成団総合戦闘射撃やC T S訓練を含む連隊検閲を実施して、更なる練度の向上を目指します。

本年、混成団は、「進化無限」「凡事徹底」を合言葉として隊員一同、真摯に隊務に精励する所存でありますので、今後とも、ご指導とご鞭撻、そしてご理解とご協力を賜りますようお願いし申し上げます。

結びに皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

### 新年のご挨拶

中部方面混成団友の会

会長 田中 清司



中部方面混成団の皆様、団友の会の皆様、明けましておめでとうございます。皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。政治経済はもとより、安倍政権になり安全保障関連法案が成立し、アメリカとよりいっそう強固な関係になり、より強い日本を築きつつあると思います。

今年もまた、昨年が続いて近隣の国々の様々なる動きに目が離せない一年になるのではないでしようか。

戦後七〇年、平和な日本を今後も構築し続けるには、自衛隊の皆様との並々ならない力と努力が不可欠です、そのことを我々友の会のみならず日本人一人一人が理解して、協力、努力しなければなりません。

また、今年には伊勢志摩サミット、二〇二〇年には東京オリンピックがあります。今年には、テロや災害がいつおこるか分かりません。今年、北海道から沖縄までの、全自衛隊の緊急出動がないことを祈るばかりです。

日本の平和のために働いていただく中部方面混成団隊員の皆様を、今年も中部方面混成団友の会全員で力強く応援させていただきます。

最後になりますが、隊員の皆様、友の会の皆様のご健勝で、幸多からんことを祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

# 申

## 新年の挨拶

第四十七普通科連隊長

一等陸佐 齋藤 肇夫



明けましておめでとうございます。連隊は、創隊以来十七回目の新年を常備自衛官二二三名、即応予備自衛官四二九名とともに迎えることができました。これは自衛隊退職後、就業のかたわら年間三十日の招集訓練に参加する即自の心意気、ご家族そして雇用企業の関係者の皆様、地方協力本部、招集訓練地の部隊など多くの方々のご支援、ご協力あつてのことと思います。誠にありがとうございます。さて連隊は二十六、二十七年度の二ヶ年をかけ中隊等検閲により練度の評価・判定、また、じ後の練成の方向性を模索してきました。「有事に戦う基盤ができていますか。」「招集された即自の能力を最大限発揮できるか。」が陸自の精強の指標の一つと考えています。来るべき連隊検閲に向け更なる練成に取り組む所存ですので今後ともご厚情賜りますようお願いいたします。

## 新年の挨拶

第四十九普通科連隊長

一等陸佐 茅野 剛也



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、幸多き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中は格別のご理解と、温かいご支援ご協力を賜り深く感謝申し上げます。昨年八月連隊長拝命以来、「即自」―錬磨―を要望事項に掲げ、日夜隊員と共に訓練に精励しております。諸先輩方が築いて来られた良き伝統を継承しつつ如何なる任務にも即応し、常備自衛官・即応予備自衛官が一丸となって創意を尽くして訓練に邁進し、いざという時に急速に増強する戦力としての実力を涵養すべく日々錬磨に努めて参ります。二十八年度には連隊創隊以来初となる「連隊検閲」の受閲が予定されており、その場でその実力を大いに発揮したいと考えております。皆様の今年一年のご健勝とご多幸を祈念致しますとともに、本年も変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

## 新年の挨拶

第四陸曹教育隊長

一等陸佐 中山 順一



明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、穏やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。第四陸曹教育隊は、陸曹上級、初級特技、陸曹候補生、生徒陸曹候補生、方面陸曹基礎英語の各課程教育及び、最先任上級曹長、中級陸曹の各集合教育を担当し、真に役立つ逞しい陸曹の育成を狙いに、それぞれの地位に応じた能力をつけさせるべく、教育にまい進してまいります。隊では、「俺を見よ、俺に続け」というリーダーシップを発揮できるがごとく、身も心も「自ら鍛える」気風を醸成していきたいと考えております。本年も変わらぬご指導ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。皆様の多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 新年の挨拶

第一〇九教育大隊長

二等陸佐 佐伯 智



明けましておめでとうございます。皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えになられた事と心からお慶び申し上げます。大隊は昨年創隊六十周年の節目を迎え、友の会及び基幹隊員家族による祝賀行事として駐屯地において会食（BBQ）を盛会のうちに執り行い、参加者相互の融和団結と大隊の今後の更なる充実発展を誓いました。本年は例年実施しておりました四月からの新入隊員教育の準備訓練を従来の二週間から三週間に延長し一層内容を充実させ方面内の臨時新隊員教育隊基幹要員にも普及することでこれまで以上に『方面における新隊員教育のメッカ』としての任務を果たしていく所存です。皆様におかれましては本年も引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

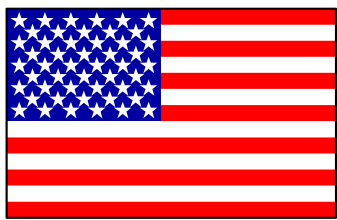
## 新年の挨拶

第一一〇教育大隊長

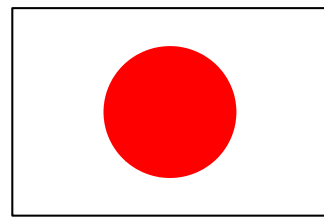
二等陸佐 増田 樹紀



明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。大隊は、一般陸曹候補生課程前期教育、予備自衛官補招集教育訓練等を担任しておりますが、本年も、新隊員や予備自衛官補等が基本的事項を確実に修得し、逞しい自衛官或いは予備自衛官となるよう、情熱と愛情をもって教育に取り組んでまいります。本年もご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



# YS69 中部方面隊



## 日米共同方面指揮所演習

平成27年12月1日(火)から12月12日(土)までの間、伊丹駐屯地において、日米共同方面隊指揮所演習が行われた。(YSとは、YamaSakuraの頭文字で訓練の通称)

この間、本訓練に併せて米軍とのアイスブレイカー(懇親会)、中部方面混成団友の会会長(田中清司氏)、大津自衛隊協力会副会長(奥一郎氏)によるYS研修及び隊員の激励、太平洋陸軍最先任上級曹長による大津駐屯地への来隊及び協力者宅へのホームビジットが実施され、米軍との交流を図った。

大津駐屯地近傍の協力者宅で実施されたホームビジットでは、日本の文化に触れ、昼食には滋賀県の郷土料理が振舞われるなど、終始和やかに家族との交流を深めた。



米軍とのかけ声「日々前進」



記念品の交換



米軍との認識の統一



友の会田中会長による激励



記念撮影



アイスブレイカー(懇親会)



協力会奥副会長による激励



和田様宅でのホームビジット



土手下様宅でのホームビジット



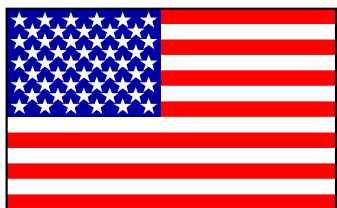
演混成団による作戦会議



和田様宅集合写真



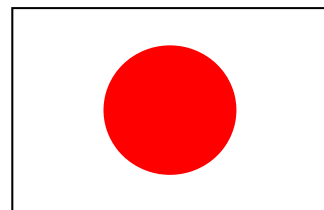
土手下様宅集合写真



# YS69

## 下士官交流行事

(大津駐屯地)



### 太平洋米陸軍最先任上級曹長・第1軍団最先任上級曹長来隊

団は、YS訓練期間である平成27年12月10日(木)、大津駐屯地において「下士官交流を活用した基本教育の充実」を目的として、第4陸曹教育隊で教育中の連大隊CSM集合教育学生18名に対し、在日米陸軍CSMによる講話を中部方面混成CSM担任により実施した。

米軍からは、ランバート太平洋米陸軍CSM、ノーマン第1軍団CSM、ドスティ在日米陸軍CSMの他、14名の米陸軍旅団・CSM等が来隊された。また、鈴木陸上自衛CSMも参加され、中部方面隊CSM以下方面管内の各師旅団CSM等69名が聴講するとともに意見交換を行った。

意見交換では、「陸上自衛隊は、共に戦える軍隊だと思うか。」の質問に対し3名の米陸軍CSMは、「YES、日本人は強い気質を持っている。そして大変規律正しい文化がある。今までの災害派遣活動、国際貢献活動、訓練においても規律正しく行動していることで証明されている。実戦において共に戦える軍隊であると認識している。」と述べ、実戦経験豊富な米陸軍CSMの生の発言を拝聴できたことは、入校中の集合教育参加者はもとより、中部方面隊管内各CSMにおいても大きな成果を得た事業となった。

11日は、日米CSMによる共同AARにおいて米陸軍のCSMは、「中部方面混成団の研修は、CSM教育の学生に対し講話ができ、また、日米相互のCSMとディスカッション出来たことは大変有意義であった。

今後こういう機会を多く設け、日米相互の信頼関係を維持向上していきたい。」と述べていた。

CSMとは、Command Sergeant Majorの頭文字で最先任上級曹長の意味  
AARとは、After Action Reviewの頭文字で訓練後の検討会の意味



意見交換風景



質問に答えるランバート太平洋米陸軍CSM



(左) 講話するドスティ在日米陸軍CSM  
(右) ノーマン第1軍団CSM



比叡山研修

# 連隊競技会 射撃・持続走

## 中隊の名誉と誇りをかけて

### 第四十七普通科連隊



最後の気力を振り絞る隊員

連隊（連隊長 齋藤一陸佐）は、十月二十八日から二十九日、平成二十七年連隊競技会（射撃・持続走）を実施した。各中隊は、本競技会を目標に日々精進を積み重ね、中隊の名誉と誇りをかけて競技会に挑んだ。

射撃の部においては戦前より混戦が予想された通り、各中隊ともレベルの高い戦いが繰り広げられ、第三中隊が三七・七点、重迫中隊とわずか0・一点差で接戦を制した。持続走の部においても、第三中隊が優勝し見事二冠を達成した。



優勝旗授与（第3中隊）



気になる得点



的が出る緊張の瞬間



情報小隊の隊容検査

連隊は、十一月十三日から十七日の間、日本原演習場において、常備自衛官一九七名即応予備自衛官三二九名、DS八名が参加して連隊練成訓練を実施した。この間、情報小隊と通信小隊の検閲を併せて実施した。情報小隊は敵情を収集すべく監視網を構成して連隊に報告した。通信小隊も命令受領後直ちに中継所を開設し組織の維持運営に寄与した。また、併せて各中隊ごとと防御練成訓練を行い、平成二十九年に実施される創立初の連隊検閲に向け所望の成果を収めた。

### 連隊練成訓練



火力調整会議



電話機の設置



地上レーダー装置を用いての敵情監視

第四十九普通科連隊



第一中隊、施設作業小隊訓練検閲受閲

〈大阪地本と連携し施設科部隊との協同訓練を公開〉

第四十九普通科連隊（連隊長 茅野一陸佐）は、第八次即応予備自衛官招集訓練の一環として、平成二十七年十月三十一日から十一月二日までの間、あいち野演習場（滋賀県高島市）において第二次中隊等訓練検閲（第一中隊・施設作業小隊）を、十一月十四・十五日は長池演習場（京都府城陽市）において施設科部隊との協同訓練（第四中隊・第七施設群第三七九施設中隊）を実施した。訓練検閲においては、受閲部隊は各出頭駐屯地（金沢・豊川）から即

第2次中隊等訓練検閲  
(中隊戦闘指導)



応予備自衛官六十三名をあいば野演習場に集結させて、第一中隊は課目「陣地防御（主戦闘地域守備中隊としての行動）」、施設作業小隊は「防御戦闘における障害構成・掩体構築」について受閲した。検閲間、第一中隊は限られた防御準備期間を最大限に活用し、所要の偵察・火力・施設器材調整、戦闘前哨（前方地域の警戒部隊）との調整を綿密に行い、堅固な陣地を構築した。防御戦闘においては戦闘前哨の離脱・収容掩護、主陣地の戦闘にも組織的な火力及び障害の構成による強固な防御戦闘を展開した。また、施設作業小隊は地雷原及び対ヘリボン障害の構成、第一線中隊に対する掩体構築支援、防御戦闘開始後は障害の閉塞を実施する等、第一線中隊の戦闘を支援した。状況の終了を通じ受閲中隊長及び小隊長を核とし、常備自衛官・即応予備自衛官が一体となって与えられた任務を完遂した。

施設科部隊との協同訓練においては、集結地占領・攻撃準備・攻撃前進・目標奪取までの一連の状況下で訓練を実施。十五日には大阪地方協力本部と連携し、第三七九施設中隊による攻撃準備間の陣前障害処理から、第四中隊の軽装甲機動車による乗車突撃及び目標奪取までを両部隊の即応予備自衛官雇用企業主等（六社七名）に公開して、即応予備自衛官制度に対する理解促進を図った。



施設科部隊との協同訓練  
[即自雇用企業主に訓練を公開]



第2次中隊等訓練検閲  
[敵情を監視する第1中隊]



第2次中隊等訓練検閲  
[掩体を構築する施設作業小隊]

3四半期各種訓練・行事フォトピックアップ



10. 10~11 第1次中隊等訓練  
検閲(長池)



11. 9~19 第2次戦闘隊練成訓練  
(岐阜県白川町)



11. 21 豊川駐屯地創立65周年  
記念行事 [訓練展示]



11. 25~27 第2次連隊補助担架  
員集合訓練(日吉原)



12. 1・16 連隊持続走(武装走)  
記録会(日吉原)



12. 5~11 平成27年度日米共同  
方面隊指揮所演習 [YS-69] (演  
中部方面混成団本部 大津)

# 第四陸曹教育隊



## 教育開始



入校式

第四陸曹教育隊（隊長 中山一陸佐）は、今年も一月六日より陸曹基礎英語課程、七日から陸曹候補生課程、十四日から陸曹上級課程の教育を開始した。計三百八十五名の学生達は、入校式において、「俺を見よ、俺に続け」「自ら鍛えよ」との激励を受け、これから始まる教育に目を輝かせ、各中隊基幹隊員も全員が気持ちを新たに教育に望んでいく。また、現在教育中のCSM課程についても一月五日より教育を再開した。

## 祝退官



松本3佐定年退官

隊本部総務科教養幹部、松本一尉は、平成二十七年十一月二十七日付を持ちまして、自衛隊生活三十五年の永きにわたり勤務され、無事定年退官いたしました。在隊間は、温厚誠実な人柄と豊富な経験及び旺盛な責任感を持って勤務され、同日付で三等陸佐に特別昇任されました。退官後は引き続き京都市内にお住まいになり、京都銀行に勤務されます。

# 第一〇九教育大隊

## 予備自衛官補招集訓練（G課程）

第一〇九教育大隊（大隊長 伯二陸佐）は、平成二十七年十一月三十日から十二月四日までの間予備自衛官補（G課程）を担当した。

G課程では、人命救助システムの取扱い、野外炊事車の取扱い、二十五キロ行進訓練等が実施され、全員が積極的に参加していた。特に二十五キロ行進訓練では、全員が力強く行進しその姿に頼もしさを感じることができた。これからも大隊は熱意と信念をもって教育訓練等を実施し、真に活躍できる隊員の育成に励む所存である。



野外炊事車で炊さんしたご飯をみんなで喫食



25Km行進訓練を全員で完歩



人命救助システムの取扱いを体験する予備自衛官補

# 第一一〇教育大隊



## 平成二十七年 中隊練成訓練

大隊（大隊長 増田二陸佐）は、平成二十七年十一月十七日から二十日の間、小野演習場（松山）において各中隊ごと一夜二日の中隊練成訓練を実施した。夜間行進から集結地の占領、対遊撃行動、対空行動の一連の行動を演練し、部隊感覚の維持及び基礎動作の再確認により、職務遂行能力の向上を図った。



命令下達



夜間行進



対空警戒



対遊撃警戒

### 生活体験支援



10km行進



基本教練



乃木資料館見学



自衛隊体操

大隊は、平成二十七年十月二十六日から二十八日までの間、部外企業（百十四銀行）社員七十二名に対し、生活体験支援を実施した。十名一部屋の二段ベット、時間で区切られた生活、隊列を組んでの移動等、参加者にとって不慣れなことばかりで戸惑いもみられたが、班長たちの指導の下、自衛隊の生活習慣を学んだ。

訓練では基本教練、十キロ行進、自衛隊体操等を実施し、行進訓練では、自分の体力に不安を抱きつつも全員完歩した。

乃木資料館見学では、乃木將軍の武士道精神を学び日本人としての生き方を考える機会となったようであった。

三日間の訓練で得たものをそれぞれの職務で活かしてもらいたい。

### 年女の抱負

第四十七普通科連隊

本部管理中隊

二等陸曹 原 小百合



明けましておめでとうございます。この度、無事に三度目の年女を迎えることができました。

今年一年、また十二年後にどうなりたいか？を考えて「やってみる」ことを抱負にしようと思います。

三十路も半ばになり、色々などころで制約がかかり始め、何かと「まあいいか」と、やらずに過ごしてしまうことが増えてきた様に感じます。しかし、いつでも遅すぎることは無く、まず「やってみる」ことがこれからの時間の中で貴重な財産になつていくのではないかと思います。

無理をするのではなく、できる範囲で人生を豊かにしていける様、プライベートと仕事のバランスをうまくとりながらどちらも充実させて行けるよう、年齢や立場に臆することなく色んなことをやってみようと思います。

そして、十二年後健やかな四度目の年女を迎えることが出来たらと思います。

### 年男の抱負

第四陸曹教育隊

共通教育中隊

二等陸曹 多氣 直樹



三度目の年男を迎えることになりました。この機会に三十六年間を振り返ってみると、あつという間だったように思います。

今年で四曹教で勤務して四年が経ちました。

二年程前から先任助教として勤務させていただき毎日が勉強の連続で、失敗し落ち込むこともありましたが、家族や友人・同僚など多くの人に支えられてこの一年を乗り切ることができ、また成長することができました。

今の自分があるのはそんな多くの方々からの支えによるおかげだと思っています。

今年も甲年といふこともあり申のようにポジティブに賢く全力で動けば何かを得ることができると思っています。

挑戦する心を持ち、多くの人々への感謝の気持ちを忘れずにサルのように行動力を発揮して元氣よく楽しい二〇一六年にしたいです。